

## 記事内容

- ☆2023地域活性化フォーラム
- ☆第7回(最終)回答集計結果
- ☆ジェンダー平等・多様性推進「トップセミナー」/男女平等推進要請行動
- ☆平和行動in沖縄
- ☆平和行動in沖縄
- ☆女性のためのSTEPUPセミナー/災害ボランティア救援隊隊員研修(初級)
- ☆「新型コロナウイルス感染症対策」貢献への感謝状贈呈/8月の行動予定表
- ☆あけぼのビル

## 公労使で取り組む『働き方改革』で地域の活性化を目指そう!

## 2023地域活性化フォーラムを開催

7月11日(火)大宮ソニックシティ市民ホールにて、埼玉県経営者協会、埼玉県、埼玉労働局と共催の「2023地域活性化フォーラム」を開催しました。

構成組織や地域協議会と埼玉県経営者協会の加盟企業、埼玉県、埼玉労働局の方にご参加いただき、全体で58名に参加いただきました。



近藤会長

冒頭、連合埼玉の近藤会長から「職場での働きがいの追求が企業を活性化させ、地域の活性化を生むという観点から、2016年より地域活性化フォーラムをスタートしました。今年についても、4月から中小企業の時間外割増の変更や障がい者雇用率の引き上げなど環境が変化しています。労使がこうした課題に真摯に向き合い、前進させることで、社会全体がより活性化していくのだと思います。ぜひ本フォーラムの内容を参考にしてもらいたい」と挨拶がありました。

続いて、第1部として、法政大学大学院の禹<sup>ウー</sup>宗杭<sup>ジョンフワン</sup>氏から「人への投資で余裕を生み出し、企業・社会の活性化をもたらそう!」と題して講演いただきました。



法政大学大学院禹(ウー)教授

講演の中では、リスキリングなどの人への投資の必要性や海外と比較した日本の働き方や仕事管理の違いが説明されました。そして、今後の企業・社会には人への投資で、人的・財務的・時間的余裕を作り、企業・社

会の活性化や人の幸福につなげなければならないと説明がありました。



富士電機労働組合竹内執行委員長

続いて、2部では事例報告が2件おこなわれました。1件目は、富士電機労働組合吹上支部執行委員長の竹内 秀之氏から「障がい者雇用に関する富士電機の取り組み」として、富士電機が障がい者雇用に取り組むきっかけから、共に働く社員として周囲の組合員の理解などにも取り組んでいることが紹介されました。

2件目は、マルキュー株式会社管理部総務課の澁井 裕太氏から、「企業と育児休業の関わり方」として、社内の育児休業制度の説明と育児休業について新入社員研修や、結婚・出産のタイ



マルキュー株式会社澁井氏

ミングで教育・アドバイスをとおこなうとともに、特に男性の育児休業が取得しやすい環境整備に向けた取り組みが紹介されました。



経営者協会原会長

最後に、埼玉県経営者協会の原会長から「日本企業のいいところを生かし、労使協調・共創で企業・地域の活性化に取り組んでいきたい」と閉会の挨拶がありました。

## 連合:2023春季生活闘争 第7回回答集計結果【抜粋】(7月5日現在)

連合は7月3日(月)、2023春季生活闘争 第7回回答集計結果を公表しました。

### 【概要】

- 月例賃金改善(定昇維持含む)を要求した5,613組合中5,463組合が妥結済み(97.3%)。うち2,909組合(53.2%)が賃金改善分を獲得している。
  - 平均賃金方式で回答を引き出した5,272組合の「定昇相当込み賃上げ計」の加重平均は10,560円・3.58%(昨年同時期比4,556円増・1.51ポイント増)となった。
  - 有期・短時間・契約等労働者の賃上げ額は、加重平均で時給52.78円(昨年同時期比29.35円増)・月給6,828円(昨年同時期比2,831円増)、引上げ率は概算でそれぞれ5.01%・3.18%となり、時給は一般組合員(平均賃金方式)を上回った。
- ※回答集計結果は、連合埼玉HPに掲載しておりますので、ご確認ください。

## 1. 賃上げ <第7回回答集計結果(7月5日公表)>

平均賃金方式(集計組合員数による加重平均)

平均賃金方式	2023回答(2023年7月5日公表)			昨年対比	2022回答(2022年7月5日公表)		
	集計組合数	定昇相当込み賃上げ計			集計組合数	定昇相当込み賃上げ計	
	集計組合員数	額	率		集計組合員数	額	率
	5,272 組合 2,877,053 人	10,560 円	3.58 %	4,556円 1.51 ポイント	4,944 組合 2,710,296 人	6,004 円	2.07 %
300人未満計	3,823 組合 362,688 人	8,021 円	3.23 %	3,178円 1.27 ポイント	3,596 組合 340,095 人	4,843 円	1.96 %
~99人	2,313 組合 96,456 人	6,867 円	2.94 %	2,480円 1.05 ポイント	2,184 組合 88,939 人	4,387 円	1.89 %
100~299人	1,510 組合 266,232 人	8,451 円	3.32 %	3,441円 1.34 ポイント	1,412 組合 251,156 人	5,010 円	1.98 %
300人以上計	1,449 組合 2,514,365 人	10,957 円	3.64 %	4,774円 1.55 ポイント	1,348 組合 2,370,201 人	6,183 円	2.09 %
300~999人	978 組合 524,199 人	9,389 円	3.44 %	3,994円 1.44 ポイント	902 組合 485,271 人	5,395 円	2.00 %
1,000人~	471 組合 1,990,166 人	11,380 円	3.69 %	4,984円 1.57 ポイント	446 組合 1,884,930 人	6,396 円	2.12 %

※2023年と2022年で集計対象組合が異なるため、「定昇相当込み賃上げ計」の昨年対比は整合しない。

## 2. 有期・短時間・契約等労働者の賃上げ <第7回回答集計結果(7月5日公表)>

時給	2023回答(2023年7月5日公表)			昨年対比	2022回答(2022年7月5日公表)		
	集計組合数 集計組合員数	賃上げ額	平均時給 (参考値)		集計組合数 集計組合員数	賃上げ額	平均時給 (参考値)
単純平均	377 組合	39.74 円	1,091.78 円	18.37円	337 組合	21.37 円	1,057.31 円
加重平均	808,108 人	52.78 円	1,095.67 円	29.35円	754,004 人	23.43 円	1,047.00 円
月給	集計組合数 集計組合員数	賃上げ額	率(参考値)	昨年対比	集計組合数 集計組合員数	賃上げ額	率(参考値)
	単純平均	136 組合	6,647 円		3.09 %	100 組合	3,728 円
加重平均	29,553 人	6,828 円	3.18 %	2,831円	27,425 人	3,997 円	1.85 %

## アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)に気づくこと ジェンダー平等・多様性推進「トップセミナー」を開催



一ノ瀬先生

6月21日(水)ときわ会館にて、2023年度「男女平等月間」の取り組みとして、ジェンダー平等・多様性推進「トップセミナー」を開催し、構成組織から29名、推薦議員17名、事務局3名の総勢49名が参加しました。

今回のセミナーでは、アンコンシャスバイアス研究所から一ノ瀬 史子氏をお招きし、「アンコンシャスバイアスへの気づき～一人ひとりがイキイキと活躍するために～」というテーマで講演をいただきました。

アンコンシャスバイアスとは、「無意識に“こうだ”と思い込む」ことで、日常にあふれていて、誰にでもあるものです。だからこそ、その影響に気づこうとすることが重要であり、ネガティブな影響を防ぐための対処法を意識しなくてはなりません。

○アンコンシャスバイアスを意識する

○決めつけない、押し付けない

○サイン(表情・態度)を手がかりに、対応する  
この3点がポイントとなります。

アンコンシャスバイアスは本能によるものなので、払拭はできないからこそ、気づこうとすることが大切です。新たな経験や見聞きすることで「上書き」することにより、「見える世界」や「未来」は変わるかも知れない、と最後にまとめていただきました。

参加者はグループに分かれ、書直な意見交換をする中で、自らの中にあるアンコンシャスバイアスに気づいき、「人への接し方、話し方、受け取り方を見直そうと思った」などの感想をいただき、皆さんの表情が晴れやかなのが印象的でした。



## 埼玉労働局に対して 「男女平等参画社会」実現をめざした要請を実施!

連合埼玉は、男女が均等な機会と待遇で、仕事と生活の役割と責任を分かち合いながら働き続けることのできる「男女平等参画社会」実現をめざして取り組んでいます。

そのような中、6月21日(水)に埼玉労働局に対して、「男女平等参画社会」実現をめざした要請をおこないました。当日は、ジェンダー平等・多様性推進委員会 金谷委員長(連合埼玉副会長)から、埼玉労働局雇用環境・均等部企画課 堀口課長へ要請書を手渡し、その後、意見交換をおこないました。

具体的な要請項目は、以下のとおりとなります。

1. 雇用創出と生活困窮者への支援

2. 仕事と育児・介護、不妊治療等が両立できる就業環境の整備
3. 女性の活躍とジェンダー平等で多様性を認め合う社会の実現



要請書を手渡する金谷委員長と堀口課長

# ～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和の実現しよう～

## 2023平和行動 in 沖縄

6月23日(金)～6月25日(日)に平和4行動のスタートである「平和行動in沖縄～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう～」が沖縄県那覇文化芸術劇場なは一とで開催されました。連合埼玉からは構成組織、地域協議会、女性委員会、青年委員会より15名が参加し、集会全体では800人規模の参加となりました。

6月23日の「連合2023平和オキナワ集会」では、「日米地位協定と沖縄」と題し、琉球大学人文社会学部准教授の山本章子氏より講演をいただきました。講演では、日本とNATOの協定の枠組みとその違いから、日本の地位協定の問題点として、日本共通で、共同訓練や

米軍が使用している土地、空域などの問題点が説明された。また、沖縄では米軍に検疫を強制できないことが新型コロナウイルスが拡大した要因の一つであるなどの説明があり、改めて様々な問題があると認識することができました。

6月24日のピース・フィールドワークでは、沖縄陸軍病院南風壕、ひめゆりの塔・資料館、旧海軍司令部壕などの戦跡を自らの目や肌で感じることで、77年前の戦争の惨劇とを強く心に刻みました。

参加者全員でこの平和行動で目の当たりにした戦争の本質、そして実感した平和の大切さを広く伝えていきます。

1日目  
(6/23)

### ■連合2023平和オキナワ集会

と き 15:00～16:30

場 所 那覇文化芸術劇場なは一と

内 容 第1部

日米地位協定と沖縄

講師:山本章子氏

(琉球大学人文社会学部国際法政学科准教授)

第2部 平和式典

2日目  
(6/24)

### ■ピース・フィールドワーク(連合群馬と合同行動)

内 容 南風原文化センター・沖縄陸軍病院南風壕→  
平和祈念公園 → ひめゆりの塔・資料館 → 旧  
海軍司令部壕



### ①平和行動に参加したのは何回目ですか? ②感想

①初めて

②ピースフィールドワークで訪れた、旧海軍司令部壕の高台に立ち、周囲を見渡すと、足元には沖縄の市街地が広がり、そのすぐ奥には海が見えた。この美しい眺めの中に数多の戦争遺跡が残っており、沖縄に住む人たちは、過去の戦争による傷跡のすぐ側で、日常の暮らしを営んでいるのだと実感した。「平和を実現するためには何が大切か」「戦争を繰り返さないためにはどうすべきか」を考えると、過去にもっとも悲惨な戦場となり、現在においてもっとも現場に近い、沖縄に住む人たちの声・意見を聞き、伝えていくことが不可欠であると強く感じた。



佐野 稷

①初めて

②太平洋戦争後78年が経過し、戦争を体験した人々が激減し、激戦地であった事すら忘れていく人々が多い事は事実で、今は沖縄＝観光であり、慰問で訪れる人は少ない。今回の平和行動で平和祈念公園など訪れる場所は、今まではスクリーン上の一部を見ていただけで、現実に訪れると戦争の惨たらしさ、悲しみ、いろいろな感情が生まれてくる。今回の平和行動に参加した事で、意識を変える変換点ではないかと感じている。また息子に明確な回答を答える事ができる経験ができたのではないかと。平和行動を続けることで、沖縄の現状を理解し二度と戦争を起こさない、そう思う人が一人でも増える事が重要だ。平和の意味を噛みしめ伝承していく。平和であることを願って。



大塚博紀

## ①初めて

②テレビで観る沖縄と現地で見る沖縄の違いへの戸惑い。同じ日本でありながら、目に入るアメリカ軍の施設。平和行動内で日米地位協定に関する講演で知ることの出来た日米間の問題点、ピースフィールドワークでガイドから聞く沖縄戦の話、施設や資料で目にする第二次世界大戦時に沖縄で起こった出来事。沖縄で今でも続いている戦争の名残り、空気感は現地で体験することでしか感じ取れないと痛感し、戦後78年経った今でも、沖縄の戦争は未だに終わっていないのだと思われた。



嘉納駿

## ①初めて

②参加する前の沖縄のイメージは観光地でした。今回、戦争まつわる場所を巡り、見て、話を聞いて戦地であったという事実を強く認識した。特に南風原壕に入った際には、15分程度だったが、息苦しさを感じた。それでも、当時の状況をいくら思い浮かべて当時の人たちの感覚には遠く及ばないのだと思う。しかしながら、戦争体験者が少なくなってきた中で、我々は、記憶が風化しないよう見たこと聞いたこと伝え、改めて平和の尊さをみんなで守っていかねばならないと強く感じた。



伊藤康之

## ①初めて

②開始早々の平和オキナワ集会から戦争の悲惨さ、ピースフィールドワークから学ぶ当時の状況、そして戦後78年経過した今でも続いている沖縄での生活状況や地域住民の不安。日本の歴史と私の心の中に計り知れない大きな爪痕を残した。戦争は人間の一番愚かな行為で何も生まないし何も生まれないと思う。しかし今の日本や私の生があるのも日本国のために戦った事実や沖縄戦で約20万人の命を失った事を胸に刻み、私だけでは微力ですが何か復興へのお手伝いをする。



高橋正機

## ①初めて

②初めて訪れた沖縄は78年前に太平洋戦争における最後の日米決戦地であり多くの爪痕が残る場所である事を学んだ。平和オキナワ集会で日米地位協定の講演を聞き、今も日本各地では返還されない用地がある現実を知り、改めて自分事として捉えられる機会となった。以上の事は全て戦争が生み出してしまった事であり、その実相を語り継ぎ恒久平和を実現する運動を継続していく必要があると考える。平和行動に参加し、未来に向けてできる事を考え、行動する機会の継続を強く望む。



荒井健児

## ①2回目

②20年ほど前に観光として沖縄に行ったが、今回平和行動に参加して当時と違う事が2つあった。以前はひめゆり学徒の方が凄惨な思いを直接語っていたが、今は画像の中で自身の経験を語っていたこと、そして首里城の焼失。平和オキナワ集会では「戦争を知らない世代が増えた、今後も戦争を語り継ぐことが大切だ」と皆さん述べられていたが、世代交代しながら多くの人が平和行動に参加し続けることこそ、戦後78年、それ以前の沖縄の歴史も含めて、風化させることなく語り継ぐことができると強く感じた。



野村久美

## ①初めて

②『戦争はいつだって老人が始め、若者が犠牲になる』とある有識者がウクライナ戦争が始まった時、テレビでこんなことを言っていた。平和祈念資料館にあった子ども達が犠牲となった写真。それを見た時、とても激しく胸に突き刺さるものがありました。今、私にも7歳と4歳の子どもがいますが、もし今戦争が起き、自分の子ども達がこんなことになったら？と必然と重ね胸が詰まった。平和行動を終え、帰ってからも答えが分からないままずっと考えさせられている。現在も戦争以降ずっと続いている様々な問題を抱えている沖縄や、日本全体についても新たな学びがあり、今回参加出させて頂けたことに、非常に感謝している。



岩田雅光

## ①2回目

②今回の平和行動に参加し、改めて戦争の苦しみ、悲しみ、恐ろしさをより感じる事ができた。この場で78年前に約3ヶ月に渡り激しい地上戦がおこなわれ、多くの兵士や一般住民の命が失われたことを想像すると、「恐い」という感情しか出てこない。2022年2月からロシアのウクライナ侵攻が未だ続いているが、この行動を経験し一刻も早く終わってほしい気持ちが強まった。この行動に幅広く、多くの人に参加していただき、「戦争は絶対に起こしてはいけない」と感じてほしいと思う。自分も今回の経験を少しでも多くの人に伝えていく。



石渡幸司



折り鶴献納



平和オキナワ集会

## ①初めて

②今回の平和行動をつうじ感じたことは、戦争の狂気である。なぜ戦争が起きたのか、なぜ殺しあわなければならないのか、なぜ民間人に武器を向けたのか。そして国家総力戦の下、なぜ民間人が戦争遂行に協力させられ、戦渦に巻き込まれ殺されなければならないのか。なぜそれでも戦争を終わらせられなかったのか、なぜ投降できなかったのか。戦地の悲惨さを語り継ぐこととともに、それをきっかけとして、一人ひとりが争いの起きたメカニズムと戦争が起こした狂気について考え続けていくことが重要だと改めて感じた。



榎本一也

## ①初めて

②今回の体験を通して、「戦争について遠い出来事と考えていたな」と改めて感じた。「沖縄陸軍病院南風原壕」「平和記念公園」「ひめゆりの塔」「旧海軍司令部壕」と各地を巡らせていただき、当時の風景を想像しながら「私だったらどうしているだろう」と考え、「生きたい」と果たして思えるだろうか等、様々な事を考えさせられる体験だった。平和な世に慣れてしまっている私ではあるが、今回の体験をつうじて「戦争を起こさせない努力」を私なりに考えていく必要があるなと感じた。



石田将太

## 女性のためのSTEP UPセミナー(中級編)を開催!

～「傾聴」スキルを楽しく磨く～



参加者の皆さん

女性委員会は7月13日(木)「女性のためのSTEP UPセミナー(中級編)」をあけぼのビルで、構成組織・女性委員会幹事、計20名が参加し、講演とグループワークの二部構成で開催しました。

講演では、6月開催の初級編から引き続き、日本カウンセラー協会の林 久美子先生を招き、「傾聴スキルを楽しく磨く」をテーマに、傾聴スキルを初級編からブラッシュアップした講義と実習を組み合わせておこないました。

講義では「傾聴」の効果を理解し、「傾聴」の姿勢と様々な傾聴技法を学びました。ア라운드インタビュー

形式の実習では、「うなづき・あいづち」での対話から「伝え返し」「要約」、最後に、「しっかり聴きながら1回以上質問する」と段階的な実習により、最初戸惑っていた参加者も、最後にはしっかりと質問をしていました。

グループワークでは、職場の相談事例への対処方法について話し合い、様々な意見を出し合うことで、他の人の意見から新たな気づきを得ていました。

9月には上級編を予定していますが、初級・中級と開催してきた内容を上級編につなげていきたいと考えています。引き続き多くの皆さんに参加いただけるよう取り組んでいきます。



講師：日本カウンセラー協会  
林久美子先生



グループワーク

## 災害ボランティア救援隊 隊員研修(初級)

ひとつ ひとつの 命のために

6月17日(土)ときわ会館にて、災害ボランティア救援隊隊員13名参加のもと、隊員研修(初級編)を開催しました。

災害ボランティア救援隊運営委員会の今井委員長(連合埼玉副会長)による主催者あいさつのあと、災害支援・防災教育コーディネーターの宮崎 賢哉氏より「災害ボランティア活動の基礎」と題し、被災地へボランティアに行く時の心構えや注意事項、現地で必要なスキル、ストレスへの対処法など、ボランティア活動の基礎について学びました。実際に参加者からも「過去に一度受けたことがあるが、手順や胸部圧迫の回数な

ど忘れていたことが多い」といった感想もありました。

その後、コロナ禍で中止または開催制限されていた「普通救命講習Ⅰ」(さいたま市消防局指導のもとでおこなうAEDを用いた救命講習)を4年ぶりに受けることができました。最近では一般の企業でもAEDの使い方講習などが開催されることが多くなってきているが、さいたま市消防局からは、今回受講した「普通救命講習Ⅰ」は5年に1回手順の見直しがおこなわれることや、繰り返し受講することで一時救命の仕方を身に付けることができるとの説明がありました。



今井副会長



グループワーク



胸骨圧迫

## 埼玉県より「新型コロナウイルス感染対策」 貢献への感謝状贈呈

7月3日(月)に埼玉県庁の庁議室において、埼玉県の新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた感染対策と埼玉県の経済の回復への貢献として、大野知事より、近藤会長に対して「感謝状」が贈呈されました。

これまでのコロナ禍で、定期的に行われてきた「感染

症専門家会議」や「強い経済の構築に向けた埼玉県戦略会議」をつうじて、各構成組織からのご意見・ご要望を埼玉県へ要請したり、埼玉県からの感染対策への要請を各構成組織・各加盟組合の周知、取り組みへのご協力により、今回の感謝状の贈呈となりました。



### 現在予定される8月の日程表です

8月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 火	①第9回四役・執行委員会(10:00~13:00~・ときわ会館) ②第4回役員推せん委員会(12:30~・ときわ会館)	小川町議会議員選挙告示日
2日 水		埼玉労働局「第3回地方最低賃金審議会」(13:30~・埼玉労働局)
3日 木	埼玉公務労協「第2回三役会」(18:30~・県労評会館)	埼玉労働局「第4回地方最低賃金審議会」(9:30~・埼玉労働局)
4日 金	平和行動in広島(～6日・広島市)	埼玉労働局「第5回地方最低賃金審議会」(9:30~・埼玉労働局)
5日 土		
6日 日		①埼玉県知事選挙投票日 ②小川町議会議員選挙投票日
7日 月		埼玉労働局「地方最低賃金審議会(予備日)」(9:30~・埼玉労働局)
8日 火	平和行動in長崎(～10日・長崎市)	埼玉県「女性デジタル人材育成部会」(10:00~・埼玉会館)
9日 水		川越・西入間地域協議会「第4回幹事会」(～10日)
10日 木		
11日 金		
12日 土		
13日 日	夏期休暇	
14日 月		
15日 火		
16日 水		
17日 木		
18日 金		
19日 土	ネット21「夏休み親子・ファミリー自然体験プランin尾瀬」(～20日)	
20日 日		
21日 月		
22日 火		
23日 水		埼玉労働局「第6回地方最低賃金審議会(意義審)」(9:30~・埼玉労働局)
24日 木	ジェンダー平等多様性推進「差別なく多様性を認め合う環境設備に向けたセミナー」(14:00~)	
25日 金	青年委員会「第8回幹事会」(18:00~・連合埼玉会議室)	
26日 土	ネット21「山の学校inときがわ2023」(ときがわ町)	
27日 日		
28日 月		
29日 火		
30日 水		
31日 木	第3回地協議長・事務局長会議(14:00~・ときわ会館)	



### <はじめに>

8月を迎え、年を追う毎に、猛暑日が多くなっています。また、突然の豪雨や雷など、不安定な気候変動が目につきます。猛暑による熱中症や脱水症状、豪雨による水害や土砂災害による被害など、天気が良くても、悪くても、身の危険を感じる状況になっています。

このような状況を見ると、私たちの命と暮らしを守り、安心して暮らしていくためには、各自治体をはじめとする医療や防災対策などの公共サービスが重要性になります。

一方で、公共サービスの現場は、人手不足が深刻な上、急激な物価高騰に賃金が追いついていない現状もあります。

改めて、私たちが安心・安全に暮らしていくための「公共サービス」について、考えてみたいと思います。

### <公共サービス基本条例>

公共サービスを考える上では、「公共サービスとは何か?」という視点が重要になります。その点から言えば、2009年に国において定めた「公共サービス基本法」があります。この法律は、公共サービスに関わる業務や事業の基本的枠組みを定めています。

その上で、各地方自治体の行政機関によって制定される「公共サービス基本条例」があります。

この条例は、各自治体において、地域社会における医療、福祉、教育、まちづくりなどのすべての「公共サービス」が、必要な時、必要な人に確実に行き届くよう基盤を整備し、「公共サービス」の質を向上させることで、豊かな地域社会づくりを実現させるための条例です。

埼玉県内では、24の市町村で「自治基本条例」や「まちづくり基本条例」の名称で定めています。まだ、埼玉県をはじめ、63市町村すべての自治体で制定できていませんが、継続した政策・制度要請が必要です。

その上で、各自治体の公共サービス基本条例では、NPOなどが提供するサービスや民間委託するサービスも含めて「公共サービス」と捉えようとしています。

そのために、行政以外が供給する「公共サービス」についても、透明性・公開性を確保すると同時に、市民の問い合わせなどのアクセスを容易にし、その意向を反映できるようにしようとしています。

したがって、公共サービスの質や量を確保するためには、市民による民主的コントロールの仕組みの整備・充実、情報公開などのルールが重要な課題となっています。また、「公共」の担い手の多様化により、NPOなどの新しい公共の

担い手と行政とのネットワーク化をつうじて、新たな「公共性の空間」を創出することが求められています。

そのためにも、公共サービスを定義し、市民が公共サービスを平等に享受し、市民の声から改善もでき、市民が参加する公共サービス会議を実施し、そして公共サービスの支える仲間の労働環境整備も必要です。

### <公契約条例>

各自治体においては、基本条例とは別に、「公契約条例」を定めています。基本条例との違いは、基本条例が「総論」と公契約が「各論」の関係にあります。

公契約条例は、各自治体の実際の公共サービスの諸課題を解決していくためルールを定めるものです。

特に、公契約条例の中には、公共サービスに従事している労働者の生活賃金について規定しており、地域の最低賃金の履行はもちろんのこと、公契約をおこなう発注者という立場から、公契約事業に携わる労働者の労働条件ならびに賃金水準も確保するためにも、「賃金条項」を盛り込んでいます。

埼玉県内でも越谷市、草加市で公契約条例を締結していますが、上尾市や富士見市では、「契約に係る労働環境の確認に関する要綱」を締結しています。

埼玉県内では、公契約条例を結ぶ自治体がまだまだ少ない状況であり、この点も政策・制度要請をつうじて取り組む必要があります。



川越市「川越本丸御殿」

### <街づくり>

埼玉県川越市にある歴史的な建造物として、川越本丸御殿があります。東日本に唯一残る「藩主の居住施設」としても有名で、県指定文化財になっています。

御殿内部には、当時の武士階級の生活様式や美意識を垣間見ることができます。

また、昭和中頃には、近隣の初雁中学校の体育館として使用され、天井にはバレーボールの跡が今も残っている状況を確認でき、非常に広い御殿であることでも有名です。

当時の街づくりは、政治的な要所としての役割と商業をはじめとする商人、農民など生産者、運送など商売できる環境の両方を兼ね備えたものだったようです。

いつの時代も、街づくりに欠かせない公共サービスは、サービスを支える側も、携わる側も、受ける側も、共に考え、共に支えあう市民参加の街づくりこそが重要なことだと思います。

2023.7.19